

浄土真宗東本願寺派野中山正山寺

ほつ寺通信

※ご家族でご覧ください

第24号

令和3年3月3日
野正
責任者
藤野
発行
職
住
(住)

春の彼岸

3月17日 (彼岸入り)
3月20日 (中日・春分の日)
3月23日 (彼岸明け)

まもなく春の彼岸となります。

皆さんこんにちは。昨年の「今年の漢字」は「密」でした。私的には「禍」かなと思っていました。が、惜しくも二位でした。と悠長なことを言っている場合ではなくこの記事を書いている2月上旬、コロナ禍第三波の真つ只中。医療崩壊も間近と連日の報道。先行きの見えない不安の中での生活を強いられることとお察しします。ただワクチン接種といった光明も間近であり、今年こそは「禍いを転じて福と為す」年となりませうよう念じております。

そうは言いついても油断は禁物です。知らぬ間に感染して無自覚のまま周りに感染させてしまっていることも多いと聞きます。コロナ禍中の三原則「マスク・手洗い・三密を避ける」は当然として、呉々も感染には気をつけてお過ごしください。

ご先祖あつての私達、阿弥陀様としてご先祖様に思いを巡らしご自身の今を見つめ、今後の人生の糧になるようなご縁となりますように。お墓参りは比較的「三密」を避けられるかと思えますが、前述の三原則を守りつつ、日をずらした分散参詣も心がけてください。今回、混雑の予想される20日(土・中日)と21日(日)に交通整理をお願いする予定です。

参詣の際は、呉々も事故の無いようお気を付けてお越し下さい。

3月20日 (土) 午後2時

永代供養合同法要

彼岸の中日の午後2時より、永代供養「正安の縁」会員の方向けの合同法要を行います。※雨天決行。本堂にて読経後、永代供養墓にお参りします。

参加される方は、開始10分程前に本堂にお越しください。お早くお着きの方は、休憩所等でお待ちください。※費用不要。御一緒に正信偈を読み、納骨されている方に思いを巡らしつつ、御本尊阿弥陀様に報恩感謝致しますよう。

ありがとう

元は仏教由来の「有り難し」から来ています。有ることが難しい、あり得ない、非常にまれなことという意味です。お釈迦様が「私たちが人間に生まれるということ

は、有ることが難しい、有り難いこと」と教えられました。確かにこの地球上には無数の生き物がい、その中でも人間として、しかも誰一人として同じ人はいない唯一の人として生まれてくることは本堂に有り難く、尊いことです。「天上天下唯我独尊」お釈迦様が生まれてすぐに七歩歩いて仰った

言葉とされています。少々人格化されているように思われますが、これは「ただ私だけが尊い」と言っているわけではありません。「ただ我ひとりとして尊し」という意味で、ただ一人の、誰とも代わることのできない人間として、このいのちのままに尊いということ。普段私たちは、財産や名誉、地位などがあることによって、他より優れていると考えがちです。しかし、このお釈迦様のお言葉は、人間は何らかの条件(能力、財産、地位、健康など)によって尊いのではなく、何一つ加えることなくそのまま尊い「私」を見出すことの大切さを教えてください。まさに「有り難し」です。

話を戻します。このような奇跡みたいなことが起こった際に、人々は仏様や神様の前で手を合わせ「有り難し」と言っていたのが、後世、あらゆるものに対して、感謝の言葉として「ありがとう」になったのでしょうか。そしてこの言葉、誰にどれだけ言ってもマイナスになりません。(裏面に続く)

人を励ますときに「がんばれ」「がんばっていいね」などと言ってしまうことがあるかもしれませんが、相手によつてはそれがプレッシャーになることもあります。しかし「ありがとう」という感謝の言葉は誰に対しても、どれだけ言つても、相手との関係をよくしてくれます。

お釈迦様は「心施(しんせ)」を心掛けなさいと教えられました。心からの感謝の言葉を伝えるということですね。日常的に誰に対しても何に対しても言うことができます。一緒に食事をしていて、お茶を入れてくれたり、お箸を取ってくれたり。コンビニで商品やお釣りを受け取る時など、そんな些細なことでも「ありがとう」。えっ、そんなときまでわざわざ言わなくてもと思う人もいるかも知れませんが、言うように心掛けてみてください。相手も感謝の言葉で返してくれるようになります。お互いの間に、感謝で結ばれた関係ができていきます。家族円満・世界平和の秘訣。これ「ありがとう」マジックですよ(笑)。

坊守のコラム

ぼうもり※住職の妻

今回は、昨年十月に息子に起きた出来事について。外で遊んでいた所、段差で転び右手首を骨折。初めてのギブス生活となりました。不自由ですが、元気一杯、じつとなんかしてはもらえません。三日後、学校の階段で足を踏み外し、軽く転んでしまったようです。

その時は、それほど痛がついていなかったのでも様子を見ることにして四日後の通院を待つことに。しかし、これがいけなかった！骨が少し曲がったまわくつき始めているとのこと。別の病院を紹介され、手術することに。一泊の入院を伴い、全身麻酔をし、二本の金属を入れて骨を固定。リハビリを入れて全治二ヶ月の息子にとつて一大事件に！(病院でも一騒動ありましたが、それは別の機会に)こうなってしまうと、再度転ばないよう、ぶつけないように、家庭でも学校でも皆注意深くなりました。ですが、やっぱり男の子。学校に迎えに行くと、「大地君、走ってたよ！」「鬼ごっこしてたよ！」と小さな監視員(お友達)たちが報告してくれます(苦笑)。

よ！」と小さな監視員(お友達)たちが報告してくれます(苦笑)。

この寺報が皆様のお手元に届く頃には、コロナ禍も落ち着いていて欲しいと念じております。今回は全編に渡って感謝の記事になっています。特に医療関係に従事されている方々には感謝しても感謝しきれない思いで、呉々も差別等ないように。さて、最後の坊守のコラムですが、私的なことを長々とすみません。今は息子も完治し元気一杯。自分の骨折の事を寺報に書いてもいいよ！と言っていたので、坊守に触れてもらいました。クスッと笑っていただけなら幸いです。皆様お元気で。

あとがき

この寺報が皆様のお手元に届く頃には、コロナ禍も落ち着いていて欲しいと念じております。今回は全編に渡って感謝の記事になっています。特に医療関係に従事されている方々には感謝しても感謝しきれない思いで、呉々も差別等ないように。さて、最後の坊守のコラムですが、私的なことを長々とすみません。今は息子も完治し元気一杯。自分の骨折の事を寺報に書いてもいいよ！と言っていたので、坊守に触れてもらいました。クスッと笑っていただけなら幸いです。皆様お元気で。

寺報「ほっ寺通信」第24号

浄土真宗東本願寺派 正山寺

住職：藤野慶正(発行責任者)
住所：〒194-0201 東京都小平市町田1-5-04
電話：042-797-1446
FAX：042-797-9233
URL：<http://shousan.net>
メール：info@shousan.net